

電気通信大学 平成19年度シラバス

授業科目名	低温物性工学特論		
英文授業科目名			
開講年度	2007年度	開講年次	4年次
開講学期	前学期	開講コース・課程	夜間主コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	専門科目-学科専門科目-自由科目		
開講学科・専攻	量子・物質工学科		
担当教官名	鈴木 勝		
居室	東1-103, 106		

公開E-Mail	授業関連Webページ

【主題および達成目標】
低温物理学の重要なトピックスである液体ヘリウムの超流動を中心として、その現象と性質について述べる。

【前もって履修しておくべき科目】
熱力学、基礎的な統計力学および量子力学

【前もって履修しておくことが望ましい科目】

【教科書等】
[参考書] 山田一雄, 大見哲巨 『超流動(新物理学シリーズ28)』 培風館.

【授業内容とその進め方】

授業内容は以下を予定していますが、適当なときに「低温生成技術」の話を入れます。具体的な実験に（実験の方法も含めて）多く触れたいと思いますが、同時に理論の説明ではゴリゴリと計算もしたい考えています。

1. 『ヘリウムの基本的性質』

2. 『液体4Heの超流動』

超流動の理解は2流体モデルという現象論より始まりました。現象論はこれまで知られていた超流動の性質を理解するという理論ではありません。ここから、第2音波という新しい音波が预言されました。

3. 『素励起』

比熱の温度依存性からミクロな原子（分子）の運動の性質が調べられます。液体4Heでは、phononやrotonと呼ばれる素励起が存在する明らかになりました。

4. 『ボーズ凝縮』

液体4Heが超流動を示すのは、4He原子がBose統計に従うことから起こります。低温では、粒子の統計が重要な役割を果たします。

5. 『薄膜の超流動』

薄膜のように2次元空間に制限されたBose粒子系ではボーズ凝縮が起こらないことが分っています。しかし、1原子層以下の薄膜でも超流動が観測されます。そこには新しい超流動の理論（Kosterlitz-Thouless理論）が必要になりました。

6. 『液体3Heと超流動』

3He原子はFermi粒子です。液体3Heと超流動は電子の超伝導と似たメカニズムで超流動になります。

7. 『低温物理学のいくつかの話題』

標準として、量子ホール効果、ジョセフソン効果が利用されています。

それらのトピックスについてお話しします。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

レポート、および期末試験の結果を総合的に評価します。

【オフィスアワー：授業相談】

電気通信大学 平成19年度シラバス

【学生へのメッセージ】

【その他】